

**ispace、三井住友信託銀行から借入による14億円の資金調達を実施**

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）は本日、三井住友信託銀行株式会社への短期借入金の返済と長期借入金への借り入れ（借換）を、2025年3月31日付で行うことを、取締役会において決議したことをお知らせいたします。これにより、ispace のランダー並びにローバーの開発および運用等（含むその他関連費用）に係る運転資金として計14億円の資金を引き続き調達いたします。

ispace は、既存の短期借入金を長期借入金に借換をすることで、手元の流動性及び財務基盤の安定性をより一層高め、機動的な経営判断を行えるようにし、当社の宇宙開発における技術の品質向上サイクルを更に加速させ、急拡大している市場需要を取り込んでいくことを企図しています。

短期借入金の返済と長期借入金への借り入れ（借換）の概要は以下の通りです。

## 長期借入金の概要

① 借入先	三井住友信託銀行株式会社
② 借入金額	14億円
③ 借入金利	変動金利（基準金利＋スプレッド）
④ 借入実行日	2025年3月31日（予定）
⑤ 借入期間	2年
⑥ 資金使途	運転資金
⑦ 返済方法	一部元利均等返済後一括返済
⑧ 担保・保証	無担保・無保証

## 短期借入金返済の概要

① 借入先	三井住友信託銀行株式会社
② 借入金額	14億円
③ 借入金利	変動金利（基準金利＋スプレッド）
④ 借入実行日	2025年1月31日
⑤ 借入期間	1年
⑥ 資金使途	運転資金
⑦ 返済方法	期日一括返済
⑧ 担保・保証	無担保・無保証

## ■ 株式会社 ispace 取締役 CFO 事業統括エグゼクティブ 野崎 順平コメント

「このたびの三井住友信託銀行からの長期借入による資金調達は、当社のビジョン実現に向けたこれまでの歩みを評価をいただけたことの証であると感じ、非常に光栄に思います。本借入は、手元の流動性及び財務基盤の安定性を一層高め、今後急速に拡大が期待される月面輸送や宇宙インフラ開発の需要を取り込んでいくことを企図しております。この追い風を受けて引き続き、シスルナ経済圏構築に向けた事業推進を着実に進めてまいります。」

ispace は、日・米・欧の 3 法人でそれぞれの地域の文化や多様性を活かしながら、1 つの統合的なグローバル企業として宇宙開発を進めてまいりました。2025 年 1 月 15 日に日本法人が主導するミッション 2 の打ち上げを完了し、今後、最速 2025 年 6 月 6 日に月面着陸に再挑戦の予定。続く 2026 年には米国法人が主導するミッション 3 を順次実行していく計画です。また、2027 年には、現在日本で開発中のシリーズ 3 ランダー（仮称）を用いたミッション 4（旧ミッション 6）を予定しています。世界中の政府、企業、教育機関からの高まる需要に応えるため、ispace はミッション 3 およびそれ以降のミッションのペイロードサービス契約とデータサービスを提供してまいります。

## ■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 は 2025 年 1 月 15 日に打ち上げを完了し、今後、最速 2025 年 6 月 6 日に月面着陸に再挑戦の予定。ミッション 3 は 2026 年<sup>i</sup>、ミッション 4（旧ミッション 6）は 2027 年に<sup>ii</sup>打ち上げを行う予定。

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 へフィードバックされる予定。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

<sup>i</sup> 2025 年 3 月時点の想定

<sup>ii</sup> 2025 年 3 月時点の想定